

## 連載：[海外] グローバル体験

### 第 11 回 自分の価値を高める働き方改革

理事 杉本 晴重

三度の米国駐在を通して、アメリカ人の働き方、特に時間マネジメントとキャリアパスの重要性を勉強させられた。技術者、営業、マーケッターなどはプロフェッショナルであり、成果や評価により雇用が保障され、報酬とかポジションが決まり、自己のキャリアパスとなって行く。

#### 時間効率を上げ成果を出す

勤務時間は基本的に関係なく、年俸制で残業代もない。与えられたミッションに対して、いかに時間効率を上げて高い成果を上げるかが勝負なのだ。仕事の優先付けを行い、不要不急の業務はしない。早朝出勤して集中できる時に重要な仕事を行い、退社時間は通常時間内、予定業務が終われば早く帰宅することもある。会議も少人数で短く効率的だった。勿論、お客様対応や計画達成のためには、時間に関係なく働く。リラックスして仕事出来るように、オフィスで音楽を流し、自由にブレイクをとりコーヒーを飲みながら同僚と打合わせ等は当たり前だった。近年、日本でもこのような働き方を、取り入れている企業も多いが、当時は非常に新鮮に映った。

日本人はエンゲージメントが低いと言われるが、アメリカ人はとにかく遠慮なく意見を述べ、アイデアを提案し、議論も好きで目標達成に向けて積極的だ。

#### 自立心がキャリアパスを作る

飲み会など夜の付き合いには消極的だが、自宅でのホームパーティも多く、休日のカンパニーピクニックには参加する。仕事（会社）とそれ以外（自己研鑽、家族、地域など）との両立が基本にあり、けじめが非常に明確だった。成果が上がらず頭になる人もあれば、自ら新しいキャリアパスを求め転職をしたり、学校で勉強をし直して、別の職業にチャレンジする人もいた。自身のキャリアパスは自分で作るという自立心が、彼らの生き方、人生観の基本にあり、企業への過度の依存、甘えを嫌うようにさえ思えた。

#### 社員の個性と創造力を生かす

最近の日本政府の「働き方改革」審議では、残業時間が議論の中心になっていたが、本質的な改革になるとは思えない。企業は社員の個性と創造力を生かす経営と仕事の見直しを、個人はプロとして自立を目指し、生き方を見直すことが一番重要と思われる。

そして、政府はその実現を支援する政策実現が重要なのではないか。特に近い将来、AIが本格化する時代に向けて自分らしい価値を高めるためにも。

—以上—